



美川小学校だより

長子配布

令和7年9月5日 第7号

Established



明治5年創立 地域とともに

たやか
しくまし

令和7年度 前期学校評価の結果

7月中旬に実施いたしましたアンケート結果です。表面は、それぞれの項目を数値化したもの、裏面には今後の改善策を掲載しております。回答率は84%となりました。皆様、ご協力ありがとうございました。

項目		具体的な取り組み	主担当	実現状況の達成基準	児童	判定	保護者	判定	教員	判定	分析	改善策
かしこく	① 話す聞く力	・学力PTで、構成的グループエンカウンターに取る組む。 ・それぞれの時期に、国語の「話すこと・聞くこと」の重点単元を決め、目標とする単元を決め、目標とする単元を決めたり、交流後にちった考え方を振り返したりする場を作れる。	学習研究部 主任	自分から反応の考え方を聞いたり話したりしたくなる児童と聞く目的や弱点を認めたり交流後にもちった考え方を振り返ったりする場を設定している教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B 93% A				100%	A	・児童、教員ともに肯定的評価がAであり、取組の結果が見られた。 ・教員評価のAは73%であり、重点とする単元を絞って取組んだ点がよかったです。 ・検証問題ではA評価が1学年、C評価が4学年であり、目標とする正答率に達しない学年が多くなった。	・1学期同様、聞く力の育成に向國語科の「話すこと・聞くこと」で学習を重点単元にし、指導を行なう。 ・児童が自ら聞く意欲や目的をもつために、児童の考え方を話しを明確にするような発問をしたり手立てをとつづける。
	② 家庭学習習慣化	・家庭の手引きを改善する。 ・各学年に応じた家庭学習の内容や方法のヒントを提示する。 ・レベルアップ時間を設け、保護者の協力を得る。 ・個に応じ、量・質を弾力的に扱う	学習研究部 主任	家庭学習を自分から取り組んでいる児童・保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B 83% B	74%	C	100%	A	・保護者評価がCであり、家族からの声かけが必要な様子が見られた。 ・児童は、毎年によって宿題の出し方や量に違いがあり、ゲームなど誘惑が多い中児童が「自分から」という部分に難しさがあると考えられる。	・2学期も「レベルアップ週間」を設け、児童自身が家庭学習の目標を決めて、自分からめざもって家庭学習を取り組めるようにする。 ・児童が自ら取り組むことでレベルアップの取組として自己パーソンを行い、いろいろな内容の学習に自分から挑戦できるようになる。 ・児童の実態に応じて、無理なく取り組めるように、宿題の量や質を調整する。	
	③ 伝え合い深める子の育成	・伝え合う場や伝え合った後に自分の考え方をまとめる場を設定する。 ・授業の中で、思考を深める手立てをとる。	学習研究部 主任	授業の中で考え方を伝え合い、自分の考え方でいることをうながす。伝え合い深めな子の育成に向けた指導を行っていると考えた教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B 83% B				100%	A	・肯定的評価の割合は、昨年度前期とほぼ同じであった。 ・教員は、昨年度の評価も重ねて、全職員で継続して指導している。 ・児童評価は肯定的評価がDであり、伝え合いを自分の考え方で活かせていないと感じている児童が2割程度いる。	・伝え合う場や自分の考え方をまとめる場を設定することは継続しながら、道徳課以外でも、児童が考えだくなる間いから聞くことによる考え方のスレを教員が考え実践していく。 ・伝え合いだけで終わらないよう、学びの振の幅広い考え方を整理する時間を設定し、学びの姿勢を自覚できるようにする。
やさしく	④ 児童会活動	・活動を計画的に配置し、指導する。 ・活動の様子の見える化を図り、児童に還元する。	特活部	美川っ子集会、委員会活動、美川っ子議会で自分の役割を果たそうとしていると考えた教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B 96% A	84%	B	100%	A	・肯定的評価がRG後期と比べて4%微増し、A評価だけを見れば、7%増ではない。 ・児童は、毎回活動の様子を見取っており、適切な声かけをしていることが増加の要因と考える。 ・委員会の常時活動の設定がよかったです。	・引き続き、係活動の様子を見取り、声かけをしていく。 ・後期の委員会でも、児童の問題意識、必要感から常時活動を設定していく。	
	⑤ 道徳教育	・校内研究の組織的な取り組み ・教育活動全体における道徳教育の推進 ・家庭・地域とのつながりの推進	道徳推進教師	自分の考え方を深めり、学級やグループで話しあったりする活動に取り組んでいる児童、道徳教育が大切であると感じていると考えた教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B 88% B	100%	A	100%	A	・RG前期に比べ保護者アンケートの肯定的評価の割合が2%増えている。昨年度からの保護者・地域との連携した道徳教育の成果が見られる。 ・児童アンケートについては、昨年度3月の道徳アンケートでは、同じ結果だった。各学年の結果を見ると、ややばらつきが見られた。	・昨年度から行っている取組を継続しながら、児童がより自分の考え方を深めることができるように、研究授業を通して教員が学び合っていく。	
たくましく	⑥ 体力の向上	・授業に時間走や鬼遊び、ストレッチや軽体操・倒立を意識して取り入れる。	特活部	体をよく動かして体力がついてきていると感じる児童と、体力向上に向けて組織的な運動を行っていると考えた教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B 92% A				100%	A	・RG後期より5%肯定的評価が増えている。 ・アンケートを取った日あたりは、暑さが激しく、外での遊びも制限されただと思うが、その翌日とさうことは、体育の時間の活動を充実しているといふことが見て取れる。	・2学期以降も引き続き、「体育の学習」を活用しながら、体育の時間の充実を目指す。 ・秋ごろを目安に、体育委員会の創造的活動として、運動系の企画を実施し、体を動かす機会を提供する。
	⑦ 自己指導能力	・学習指導の中で、児童が自己指導能力を高められるよう、児童をめだり、認めたし。 ・生徒指導の担当から自分の重点項目を選んで、教諭同士が手立てで交流をすることでスキルアップを図る。 ・スクールワードPDSの項目について、児童が目標をもつて取り組めるようにする。	生徒指導主事	自己指導能力を高めていると考えた児童と、自己指導能力を高めるよう指導していると考えた教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B 90% A	100%	A	100%	A	・保護者や教師など、子供と関わる大人が児童の成長をめだり認めたし。 ・また児童も、90%と大差なくどの児童がなりたい自分で自分が行動することができている。	・2学期の目標を決める際に、キャラクターストーリーに反映したり、学期の自分の振り返り振りながら目標を立てようとする。また、その目標を達成するためどのような行動が必要かについても考えるようする。 ・引き続き大人は児童のよいところを褒めたり認めたしでいい。	
業務改善	⑩ 業務改善	・昨年度と比較を可視化して、自らの勤務状況を周知・啓発する。 ・1年1回の全休定時退校日とセルフ定時退校日を設定する。	教頭	成果指標を達成したと考える教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B A				92%	A	・月別平均昨年比4月:12:36減、5月:32:29減、6月:55減、7月:42減。 ・全体的に減っているが、時間外勤務時間の多い職員が固定化している。意識改善が必要であると考える。	・月1回の全休定時退校日とセルフ定時退校日を9月、10月、11月は2日設ける。 ・引き続き、昨年度と比較を可視化して、自らの勤務状況を周知・啓発する。
白山市学校評価共通項目	児童評価			実現状況の達成基準	児童	判定	保護者	判定	教員	判定		
	⑪ 学共①	・自己肯定感の向上 ・安定した学級、学年経営 ・組織的ないじめ未然防止、早期対応 ・互いの良さや存在を認め合う活動の充実	生徒指導部 特活部	学校で楽しく過ごしていると考えた児童、保護者、教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B 89% B	97%	A	100%	A	・児童は嬉ね学校を楽しいと感じており、多くの保護者も子どもが楽しむ学校に通っていると感じている。 ・学年別に見てみると、5年生がやや落ち込んでいる。 ・と聞道するが、反対から嫌なことを言わせたり意地悪をされたりするが、安心感を感じられない原因であると考えられる。	・反対を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行なう。 ・大人が子供を意地悪に褒めたり認めたしする場面をつくる。	
	⑫ 学共②	・授業力向上 ・校内研究の組織的な取り組み	学習部	ねらい(育みたい資質・能力)を明確にして、子供一人一人が「わかった」「できた」が積み重なっていと感じるよう指導していると考えた教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B 97% A	94%	A	100%	A	・RG後期とほぼ同じ結果であり、児童が授業を退してしまった「わかった」「できた」が積み重なっていと感じるよう指導している。 ・保護者評価については、子供の意見を概ね反映していると考えられるが、そのほかに美川の日の参観により、本校の授業や学習について理解を得られていると考えられる。	・昨年度からの道徳科について授業実践を積み重ねていくので、その中で他教科でも使える手立てを考え実践する。 ・教師主導ではなく子供主体の授業を全職員で実践し、児童が「わかった」「できた」を実感できるようにする。	
	⑬ 学共③	・組織的ないじめ未然防止、早期対応 ・安定した学級、学年経営 ・自己肯定感の向上	生徒指導部	学校で安心して過ごしていると考えた児童、保護者、教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B 87% B	95%	A	100%	A	・児童も保護者も嬉ね学校に安心感を感じている。 ・学年別に見てみると、5年生がやや落ち込んでいる。 ・⑪と関連するが、反対から嫌なことを言わせたり意地悪をされたりするが、安心感を感じられない原因であると考えられる。	・反対を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行なう。 ・大人が子供を意地悪に褒めたり認めたしする場面をつくる。	

R7 前期学校生活アンケートより 「かしこく やさしく たくましい 美川っ子」を育てるための改善策

かしこく【分かりやすい授業を目指して】

- ・聞く力の育成に向け、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習を重点単元とし、指導を行います。
- ・教師主導ではなく子供主体の授業を全職員で実践し、児童が「わかった」「できた」を実感できるようにします。

やさしく【学校が楽しい児童100%を目指して】

- ・友達を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行います。
- ・大人が子供を意識的に褒めたり認めたりする場面をつくり自己肯定感の向上を目指します。
- ・昨年度から行っている取組を継続して、児童がより自分の考えを深めることができるような道徳教育を推進していきます。

たくましく【心身ともに健全な児童の育成を目指して】

- ・体育委員会の創造的活動として、運動系の企画を実施し、体を動かす機会を増やします。
- ・自らの2学期の目標を達成するために、どのような行動が必要かについて考えさせる指導をします。

令和7年度も本校では、学校目標を「社会とのつながりの中で、学力そして豊かな心とからだをそだてる」とし、全教職員で「かしこく やさしく たくましく」を目指す子どもの姿として日々指導しています。

アンケート結果や皆様から頂いたお言葉ご意見を真摯に受け止め、今後の指導にいかしていきます。子どもの健やかな成長のためにも家庭、地域、学校が連携していくことが大切だと考えております。今後も教育活動に対するご理解ご協力を願いいたします。